

フリーード風

(現場)からの風

宮田 守男

梅雨の時期到来、降り続く長雨は夏草が盛んに成長する時期でもある。水田から聞こえてくるにぎやかな力工の声の風情を楽しみ

たい。
5月下旬3年ぶりに実施された「じんきん信寿会ふれあいの親睦の旅・貸切遊覧船での芦ノ湖クルーズと新緑の箱根・湯本富士屋ホテルのランチ」の旅に参加する機会があった。コロナ過で、特に経済的影響を受けた観光関係者を支えたいと願った松本信用金庫100周年記念事業の一環でもあった。

新型コロナワクチン3回接種を確認での申し込みと旅行前日に参加者全員の抗原検査の義務付け。検査結果が無効のケースでは集合時間30分前に集合場所

心の健康のためにも積極的に旅に出かけよう

参加者は高齢の方も多いが積極的に旅する姿には感銘さえ受けれる。久し振りの大型バス。車窓からの風景は、乗用車からのとは大きく異なり、見慣れ

戻って来る手には幾つもの土産袋を楽しそうに持つ笑顔があふれた参加者。特に印象的だったのは、買い物に立ち寄る「小田原鉛廣・かまぼこの里」の今回バス運行する朝日観光自動車の車内でのガイド評だった。

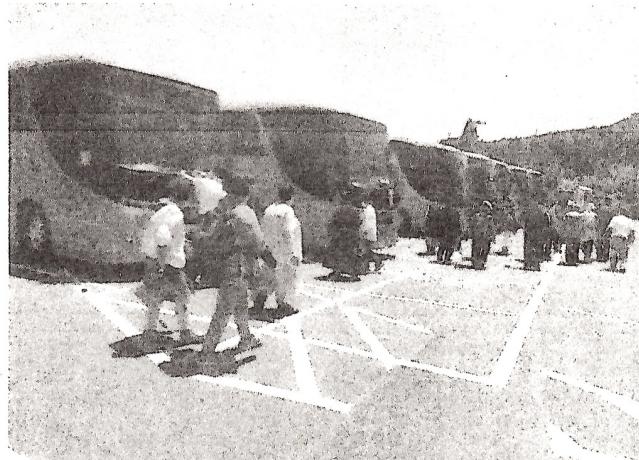
10日から実施される訪日外国人観光客の受け入れや団体旅行も積極的に募集する体制になり、グループ旅行や家族旅行も劇的に増加する見込みだ。単に從前を踏襲するのではなく、観光ニーズに着目した観光戦略が求められる絶好の機会でもある。知恵と行動に期待したい。

イトルをつけたくなるような1日がありまして」のように、これから的人生に、この厳しい時代の取り組みが多い時代の取り組みが、素晴らしいタイトルに

なるよう願うのは誰も

の希望なのかもしない。

(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



久し振りの大型バスの訪問は地元関係者が大歓迎